

情報の伝送・システムの輸送

— 極限環境からの情報伝送をめざして —

2013年12月17日 火
13:00 ▶ 17:40

会場 ▶ 一橋講堂 (東京都千代田区一ツ橋2-1-2)

講演題目と講演者

さまざまな極限環境からのデータ伝送

南極と国内を結ぶデータネットワーク: 過去、現在、未来

国立極地研究所 教授/極域データセンター長 門倉昭

宇宙機の情報伝送資源とデータ取得戦略

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 准教授 戸田知朗

望遠鏡アレイ宇宙線観測実験での遠隔地データ収集システム

東京大学 宇宙線研究所 助教 野中敏幸

ビッグデータ時代のITアーキテクチャ

統計数理研究所 教授 丸山宏

災害からの早期復旧を目指した

レジリエント情報通信ネットワーク

国立情報学研究所 研究主幹・教授 山田茂樹

さまざまな極限環境でのサイエンス

天文観測: より遠く、より広く、より精細に

国立天文台 光赤外研究部 教授 水本好彦

海洋動物の生態研究におけるデータロギング

国立極地研究所 准教授 高橋晃周

超高層大気長期変動の全球地上ネットワーク観測・研究 -IUGONETによる観測データの収集と公開-

京都大学大学院 理学研究科 教授 家森俊彦

南極大型大気レーダー(PANSY)による高解像大気物理学の新展開

東京大学 理学系研究科 教授 佐藤薫

金星探査機「あかつき」の科学データ取得戦略

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 准教授 今村剛

シンポジウムの目的

巨大データをどう扱うかが近年クローズアップされています。しかしそのようなデータをどのように計算機環境やネットワーク環境の舞台に持ってくるか、ということを含めた議論は意外となされていません。文化圏から離れた秘境、はるか上空の宇宙空間、そしてアクセス困難な南極などでは、データを伝送するためにはシステムを送ってインフラを整備しなければなりません。このシンポジウムでは、データや物資の輸送について多角的に議論して、データのコストについて考える場を提供し、いかに必要な情報・データを得ていくべきかを追求します。大規模災害や戦災からの復旧などにも当てはまる課題と考えられます。

参加費無料

〈要申込・先着順〉

会場 一橋講堂 (学術総合センター内)
所在地: 東京都千代田区一ツ橋2-1-2



■東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄新宿線・三田線「神保町」駅 徒歩5分

近隣のビル解体工事により、A8出入口は閉鎖中です。来訪の際は、A9出入口をご利用ください。

※A9出入口は地上までエスカレーター、エレベーターがあります。

■東京メトロ東西線「竹橋」駅 徒歩5分

※九段寄り改札口を出て、毎日新聞社(パレスサイドビル)B1内の飲食店並びを通り、理容店横の出入口から出るのが近道です。出て左に白山通りを200mほど進んだ一ツ橋交差点の左角です。

※1b出口から出た場合は、出て左に内堀通りを200mほど進み平川門の交差点を左折し300mほどにある一ツ橋交差点の左角です。

※建物内の会場は、当日の案内表示をご確認ください。※お車でのご来場はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。

参加申込
右記WEBよりお申し込みください。

▶ <http://www.rois.ac.jp/sympo/2013/index.html>



大学共同利用機関法人
情報・システム研究機構
Research Organization of Information and Systems

お問い合わせ 情報・システム研究機構企画課企画係
Tel : 03-6402-6215 E-mail : roissympo@rois.ac.jp